

護持

護持 (月刊)
 発行所
 本派本願寺
 ハワイ別院
 1727 Pali Highway,
 Honolulu, HI 96813
 Tel: (808) 536-7044
 Webpage:
 hawaiiibetsuin.org



蓮に思う

初瀬部唯可

季節は少しずつ夏に移り変わってきて、アネックスステンの前の蓮の花が咲きました。蓮の花は仏教では大切な意味を持つ花であります。親鸞聖人がお書きになった「顕浄土真実教行証文類」のなかで、親鸞聖人は「維摩経」というお経の中から、蓮の花の事を書かれ

ている箇所を引用していらつしやいます。それは、「さわやかな風の吹く高原の乾いた場所には蓮の花が生えること
 はありませんが、うすぐらくしめっている沼地の泥の沼にこそ、蓮の花は咲くのですよ」というものです。

沼地の泥とは、苦しみ悲しみ、妬みや怒りがすべて混ぜ込まれている私たちの心のようなものです。しかし、不可思議なことに、そのどろどろとした泥の中から、一点の泥の汚れもない、美しい蓮の花が咲くのですよと親鸞聖人が教えてくださっています。

蓮の花は、さわやかな美しい高原に花を咲かせることはできません。苦しみや悲しみの泥の中にあつてこそ、そこから目を見張る、美しい花を咲かせることが

できるのです。それは、私たち
 が煩惱の中にありながら、阿弥陀様の救いに出会わせていただくということであり
 ます。

村上先生という方が「白蓮華は、泥沼の中から生えながら、その白い花びらには一点の濁りもついていないように、信心の人は苦しみ悩みの多い人生の中にありながら、その苦悩を超えて、力強く生き抜くことが出来るからです」と言う言葉を残されました。生きていくと、嬉しいことも苦しく悲しいことにも出会っていかねければなりません。心は千々に乱れ、まさに泥沼のようです。しかし、その私の苦しみ悲しみをいつも包み込んでくださっている、大きなお慈悲に気が付かせていただいたとき、じんわ

りとお味わいをさせていた
 だきたいものであります。いろいろなことがあつて、ベッドの中で一日を振り返るとき、良い事があつた日なら手を合わせて感謝し、悪いことがあつた日もまた、手を合わせて眠りにつきたいもの
 あります。



合掌